



川口陽子

東京医科歯科大学大学院健康推進歯学分野

歯科医療従事者の種類と役割、歯科保健状況、歯科医療制度等は国により異なります。しかし、歯科疾患の原因、治療、予防法は基本的に同じなので、他国の予防対策を知ることは、わが国においても予防歯科を推進するうえで参考になると思います。ここでは、世界の予防歯科事情を紹介いたします。

File3 韓国

## 歯科製品に印刷された「2080」のメッセージ

日本では、1989年に厚生労働省と日本歯科医師会が「8020運動」を提唱し、それ以降20年以上にわたって全国各地でさまざまな歯科保健活動が実施されてきました。「8020」という成人の歯科保健目標は、当時日本人の平均寿命が約80歳であったこと、また20歯以上自分の歯が残っていると義歯を使用しなくてもほとんどすべての食品が食べられるという疫学調査の結果が出たことから立てられたのです。

2011年に発表された最新の歯科疾患実態調査によると、75～84歳における20歯以上の歯の保有者(8020達成者)率は38.3%であり、以前に比べてかなり改善していることがわかります。しかし、「8020」という言葉そのものの認知度は、一般の人々ではまだ低いのが現状です。

一方、日本のお隣の国・韓国では、「2080」が人々に広く浸透しています。韓国を訪問したとき、スーパーマーケットの歯科衛生用品売り場で、「2080」と大きく書かれた歯ブラシと歯磨剤を発見しました(図1)。これらはすべてエギョンという会社の製品

です。

韓国の歯科医師に質問したところ、この会社は日本の8020運動からヒントを得て「2080」というブランドを新たに立ち上げ、すべての口腔ケア製品にこのブランド名をつけて販売しているそうです。毎日歯磨きする際に、すなわち歯ブラシや歯磨剤を使用するたびに、「2080」という数字とそのメッセージが必ず目に入ります。このように、歯ブラシや歯磨剤を利用して口腔保健メッセージをわかりやすく提供することは、人々の口腔への関心を高めるのに最高かつ最適な方法と考えられます。

エギョン社は海外への輸出も行っており、モンゴルで販売されていた同社の歯磨剤には、英語で「2080」のメッセージが書かれていました(図2)。「8020」は、もとは日本で発祥したのですが、海外への情報提供が少ないため、外国の人は韓国の「2080」がオリジナルのものだと考えてしまうでしょう。「8020」に限らず、日本の歯科保健情報を英語でもっと発信していくことが必要だと思います。

図1 韓国で販売されている「2080」の歯磨剤

「20本の健康な歯を80歳まで」という説明が韓国語で書かれている。使用したあとに捨ててしまうパッケージだけでなく、歯磨剤や歯ブラシ本体にも「2080」と大きく印刷されているため、目につきやすい。



図2 モンゴルで販売されている「2080」の歯磨剤

輸出品には、英語で「Keep the 20 healthy teeth till 80 years old」と説明が書かれているため、より多くの人にメッセージが伝わりやすくなっている。





川口陽子

東京医科歯科大学大学院健康推進歯学分野

歯科医療従事者の種類と役割、歯科保健状況、歯科医療制度等は国により異なっています。しかし、歯科疾患の原因、治療、予防法は基本的に同じなので、他国の予防対策を知ることは、わが国においても予防歯科を推進するうえで参考になると思います。ここでは、世界の予防歯科事情を紹介いたします。

File2 タイ

# 「MILD SEVEN」の画像警告表示

たばこ製品のパッケージに記載された健康警告は、たばこの使用が深刻な健康被害をもたらすことを人々に広く知らせ、効果的なたばこ対策となります。たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約(たばこ規制枠組条約)では、160以上の締結国に対して「たばこ製品のパッケージやラベルに、たばこの使用による有害な影響を示す健康警告を表示すること」を義務づけています。

日本たばこ産業(JAPAN TOBACCO INC. 以下JT)の主力製品である「MILD SEVEN」には、「人により程度は異なりますが、ニコチンにより喫煙への依存が生じます」「喫煙は、あなたにとって肺がんの原因の1つとなります。疫学的な推計によると、喫煙者は肺がんにより死亡する危険性が非喫煙者に比べて約2倍から4倍高くなります」などの警告が、文字情報として示されています。

一方、JTがタイで販売している「MILD SEVEN」には、非常にインパクトのある画像による警告表示が行われています(図1)。タイでは2005年に、たばこのパッケージに画像を用いた健康警告を表示するこ

とが規定されました。たばこによる健康被害を示す画像として、肺がん、喉頭がん、脳卒中、喘息、胎児の発育障害、受動喫煙の影響などさまざまな写真が用いられていますが、その中には口腔がんや歯周病などの口腔画像も使用されています。

画像による健康警告は、人々に恐怖心や不快感を与え、それを見ることで禁煙や節煙の動機づけを高める大きな効果があることが証明されています。また、画像による健康警告は、字の読めない人々にもたばこ使用の危険性を伝えられることから、効果が大きいといえます。

今年2月から、JTは「MILD SEVEN」を「MEVIUS(メビウス)」という名前に変更することになりました。「マイルド」という表現には、たばこによる健康被害が少ないと誤認される可能性があり、アメリカやEU諸国などでは使用禁止となっているため、名前を変えなければ販売することができません。さらに、日本国内ではたばこの消費が減少していることから、今回の「MILD SEVEN」の名称変更は全世界で販売できるグローバルブランドにするためのJTの戦略と推測されます。

図1 たばこのパッケージの比較



